

令和元年6月18日現在

機関番号：42713

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01047

研究課題名(和文)在宅歯科医療の分野における歯科衛生士の人材育成に向けた教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of educational program for human resource development of dental hygienists in home dental care

研究代表者

伊ヶ崎 理佳 (Ikazaki, Rika)

神奈川県歯科大学短期大学部・その他部局等・特任准教授

研究者番号：30174824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、超高齢社会の在宅歯科医療に対応できる歯科衛生士の人材育成のための教育プログラムを開発することを目的とした。歯科衛生士学生ならびに在宅歯科医療に関わる医療職を対象とした教育プログラムを開発し、学生ならびに研修受講者ともに、高い評価を得た。今回の結果により、要介護高齢者の口腔機能管理に関する実習を含む本教育プログラムは在宅歯科医療の人材育成に有用であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本教育プログラムは、在宅歯科医療の実践の場において活用できる知識と技術の習得が可能となり、在宅歯科医療分野において専門性を発揮できる歯科衛生士人口の増加に繋がる。さらに、歯科衛生士における在宅歯科医療学分野を開拓する上で、学術的波及効果は極めて大きく、わが国の在宅療養者のQOLの向上に寄与できることは社会への貢献が見込める。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop an educational program for human resource development of dental hygienists who can cope with home dental care in the super aged society. We developed an educational program for dental hygienist students and medical professionals involved in home dental care, and both students and trainees got high marks. The present results suggest that this educational program, including practical training on oral function management for the elderly in need of nursing care, is useful for human resource development in home dental care.

研究分野：歯科衛生

キーワード：在宅歯科医療 歯科衛生士教育 口腔機能管理 教育プログラム 口腔のケア 摂食嚥下リハビリテーション 口腔咽頭吸引

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

平成 26 年度の診療報酬改訂において、医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実に向け、在宅医療を担う医療機関の確保と質の高い在宅医療の推進が示されている。加速的に進む高齢社会において、医療から介護へ、病院から在宅へと日常生活圏内での切れ目の無い医療介護を提供する地域包括ケアを目指す将来像の具現化に向けて、医療・介護の関連の多職種との連携を図り、地域の医療・介護サービスの充実を図る必要がある。そのためには、在宅医療充実にむけた取り組みを強化する必要がある。

歯科衛生士教育においては、社会情勢のニーズに加え、高齢者、8020 達成者の増加や国民の予防意識の高まり等に伴い、歯科疾患の予防管理、高齢者や在宅療養者への歯科診療、食育支援等の歯科衛生業務の範囲が広がる中、その業務に係る歯科衛生士の資質の向上を図ることは大きな課題となっている。このため、平成 22 年度より、厚労省は歯科衛生士の資質の向上に資する歯科衛生士養成施設の教育内容の充実を図るため、歯科衛生士養成施設の教員に対する講習会を実施している。しかしながら、講習時間が十分に確保できないこと、経験や講習の単位取得状況により参加者が限定されており、歯科衛生士教育において在宅歯科医療分野の教育の標準化には至っていない現状である。また、在宅医療の現場においては、地域における医療介護の関係機関との連携が重要であるが、現状では、訪問診療を提供している医療機関の数は不足しており、連携も十分に取れていない(厚労省資料；在宅医療・介護の推進について)ことから、在宅歯科医療における、人材不足および連携不足はさらに深刻な課題であると考えられる。今後さらに伸展する高齢社会に向け、在宅療養中の高齢者の誤嚥性肺炎や低栄養の予防をはじめ、全身の健康の維持・向上を図り、生活の質を確保するために、在宅歯科医療の分野の教育環境を整え、医療および介護ニーズを併せ持つ高齢者の歯科医療・口腔保健管理の充実を図り、訪問歯科衛生士の人材確保、育成することは急務である。

### 2. 研究の目的

在宅歯科医療においては、様々な疾患を持つ療養者に対し、歯科衛生士は摂食嚥下リハビリテーション、栄養管理、口腔のケアおよび歯科保健指導など専門的な対応を包括的かつ総合的に担当することが求められている。本研究では歯科衛生士養成において、在宅歯科医療分野の教育の標準化に向けて、看護および歯科等における在宅医療の現状に基づき、実践力を高める在宅歯科医療の教育カリキュラム、教育方法および教材の開発を含めた、教育プログラムを開発することを目的とする。

### 3. 研究の方法

在宅歯科医療分野における教育および研修カリキュラムの検討

2015 年度から、K 短期大学歯科衛生学科において、在宅歯科医療に関連する教育について、科目担当者と年度毎に評価を行いながら教育カリキュラムを検討した。また、在宅歯科医療の人材育成に関する研修会においては、主催者のニーズに応じた研修プログラムを検討した。

#### (1) 歯科衛生士学生への教育の効果の検討

在宅歯科医療において、歯科衛生士の専門知識や技術の習得に特に重要とされる口腔機能管理に関する教育を強化した教育プログラムを開発、実施し、実施後のアンケート調査により、教育効果を検討した。

#### (2) 研修受講者への教育効果の検討

在宅歯科医療に関わる歯科衛生士に必要な研修プログラムを開発し、在宅歯科医療に関わる職種を対象とした研修会を開催した。研修実施後のアンケート調査により、研修プログラムの教育効果を検討した。

### 4. 研究成果

#### (1) 在宅歯科医療分野における教育および研修カリキュラムの検討

歯科衛生士学生教育においては、在宅歯科医療に関する教育を段階的に学修できるよう教育プログラムを検討した。近年の歯科衛生士国家試験においては在宅歯科医療に関連する出題が増加傾向にあることを考慮し、要介護高齢者ならびに有病者に対する口腔機能管理に関する知識や技術を習得するためのプログラムを作成した。口腔のケアならびに口腔咽頭吸引については、歯科衛生士として高度な知識と専門技術が求められることから、口腔機能管理シミュレータを用いた口腔のケアならびに口腔咽頭吸引の技術を習得する実習を行うとともに、ビデオ教材を製作し、学生がインターネット上で動画教材を閲覧できるように設定し、学内外からオンラインで学修可能とした。また、在宅歯科医療に関わる職種を対象とした研修においては、口腔のケア、口腔咽頭吸引、摂食嚥下リハビリテーションに関する知識や技術を習得するために必要な知識や技術を習得するためのプログラムとして、1 日コースで、講義と実習を含む内容とした。

#### (2) 歯科衛生士学生における教育の効果の検討

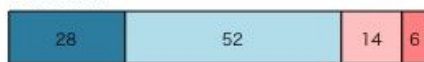
歯科衛生学科 2 年生 83 名を対象に、歯科保健指導論 の科目において、開発した教育プログラムを実施し、教育の効果の評価を行った。また、3 年生 83 名を対象に口腔機能

管理に関する国家試験対策の講義を実施後、アンケートにより、本教育プログラムの総合的な評価を行った。いずれも概ね高い評価を得た。

■ はい    ■ どちらかというとはい    ■ どちらかというといえ    ■ いいえ

①歯科衛生学科2年生からの評価結果

問1 要介護高齢者の口腔機能管理のアセスメントの方法について理解できた。



問2 要介護高齢者の特徴について理解できた。



問3 口腔のケアに必要な器材の種類と特徴について理解できた。



問4 興味を持って実習に取り組めた。

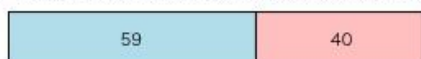


②歯科衛生学科3年生からの評価結果

問1 これまで学修した口腔機能管理の実習が国家試験対策の学修に役立っている。



問2 要介護高齢者の口腔機能管理の内容について、理解できている



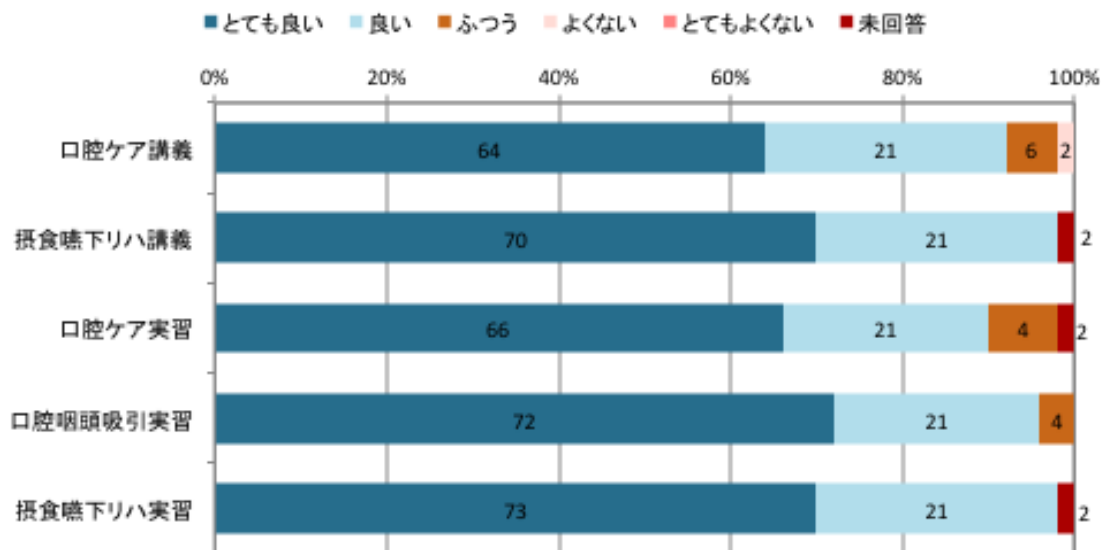
(1) 研修受講者の教育効果の検討

本研究で開発した研修プログラムを受講した50名の受講者を対象に研修終了後、アンケートにより、本プログラムの評価を行った。

研修の受講者50名の内訳は、歯科衛生士30名、歯科医師13名、言語聴覚士2名、看護師ならびに介護職1名であった。受講者の年齢は50歳代18名、40歳代15名、30歳代8名、20歳代ならびに60歳以上が3名であった。

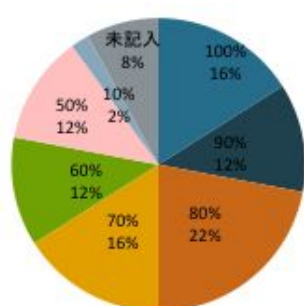
研修プログラムの各項目についての満足度についてはいずれも高い評価を得た。

研修プログラムの満足度

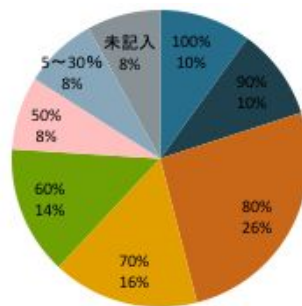


研修プログラムの習得度

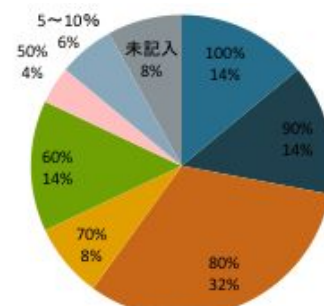
口腔のケア



口腔咽頭吸引



摂食嚥下リハビリテーション



## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計 2 件)

- (1) 星野由美：歯科衛生過程に関する教育の取り組み，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，Vol.8,45-50，2019。(査読なし)
- (2) 飯田貴俊：口腔内についてのフィジカルアセスメント，日本静脈経腸栄養学会雑誌，Vol.32,1124-1125，2017。(査読なし)

### 〔学会発表〕(計 10 件)

- (1) 星野由美：マナボット®を使用した口腔ケアおよび口腔咽頭吸引，奈良県歯科医師会主催 歯科衛生士研修会，2018年2月，奈良。
- (2) 飯田貴俊，林恵美，高城大輔，田中洋平，杉山俊太郎，星野由美，藤川隆義，森本佳成：栄養改善状態と食物誤嚥があったにも関わらず経口摂取が維持できた症例。第23回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会，2017.9月，千葉。
- (3) 飯田貴俊，林恵美，高城大輔，田中洋平，青木亜梨沙，杉山俊太郎，星野由美，藤川隆義，森本佳成：在宅で終末期患者に対し食支援をおこなった症例。第28回日本老年歯科医学会学術大会，2017年6月，名古屋。
- (4) Masayo Sunaga, Hiromi Otsuka, Junichi Furuya, Yumi Hoshino, Atsuhiko Kinoshita: Development and evaluation of computer-assisted learning material regarding oral health care methods for elderly persons requiring long-term care as interprofessional education material for dental hygiene students. the 39<sup>th</sup> Asia Pacific Dental Congress, 2017年5月，Macao.
- (5) 星野由美，飯田貴俊，関端麻美，古川夢，小堀陽子，田島百合子，伊ヶ崎理佳，片岡あい子，阿部智子，鈴木幸江：歯科衛生士学生を対象とした口腔咽頭吸引に関する実習の修得状況，第14回日本口腔ケア学会総会・学術大会，2017.4月，沖縄
- (6) Yamamoto N, Fukuda H, Ikazaki R, Naganawa Y, Asaki M, Kuboyama Y: Dental hygienist intervention into palliative care in japan. 第20回歯科衛生国際シンポジウム，2016年6月。Basel, Switzerland.
- (7) 佐藤裕二，北川 昇，桑澤実希，七田俊晴，下平 修，星野由美：歯科訪問診療実習の準備教育のためのシミュレーションシステムの改良。第28回日本老年歯科医学会学術大会，2016年6月，徳島。
- (8) 青木亜梨沙，飯田貴俊，星野由美，森本佳成：口腔機能管理シミュレータを用いた患者家族への教育支援。第28回日本老年歯科医学会学術大会，2016年6月，徳島。
- (9) 星野由美，伊ヶ崎理佳，飯田貴俊，石渡弥久，相澤佳奈，阿部智子，井出桃，片岡あい子，小堀陽子，鈴木幸江：多人数の歯科衛生士学生を対象とした口腔機能管理シミュレータ活用の一考察，第6回日本歯科衛生教育学会学術大会，2015年11月，神奈川歯科大学(横須賀市)。
- (10) 飯田貴俊，玉置勝司，若狭宏嗣，岡田猛司，熊倉彩乃，三瓶龍一，戸原玄，星野由美，植田耕一郎：摂食嚥下障害に対する舌摂食補助床の臨床的效果(第2報)，第26回日本老年歯科医学会総会・学術大会，2015年6月パシフィコ横浜(横浜市)。

### 〔図書〕(計 3 件)

- (1) 星野由美：高齢者歯科の現場から-摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割。188-189 / 森戸光彦ほか：歯科衛生士講座 高齢者歯科学，第3版，永末書店，京都，2017。
- (2) 星野由美：入れ歯はひとつ。 / 歯科医療倫理学修教材 (DVD)。日本歯科医学教育学会 倫理・プロフェッショナリズム教育委員会，東京，2017。
- (3) 片岡あい子：歯科衛生過程とコミュニケーション。pp. 75 - 79. / 片岡あい子：コミュニケーションを学ぶロール・プレイング。pp. 84 - 88. / 片岡あい子：歯科保健指導における患者との信頼関係形成のためのコミュニケーション。pp. 94 - 97. 中島丘，長坂浩，松田裕子：みがこう！コミュニケーション・センス歯科医院での医療安全のために。第1版，医歯薬出版，東京，2017。

### 〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

## 取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

星野 由美 (Hoshino Yumi)

神奈川歯科大学 短期大学部・歯科衛生学科・准教授  
研究者番号：60457314

溝部 潤子 (Mizobe Junko)  
九州歯科大学 歯学部・特別研究員  
研究者番号：40530738

中道 敦子 (Nakamichi Atsuko)  
九州歯科大学 歯学部・教授  
研究者番号：20567341

片岡 あい子 (Kataoka Aiko)  
神奈川歯科大学 短期大学部・歯科衛生学科・講師  
研究者番号：30413149

阿部 智子 (Abe Tomoko)  
神奈川歯科大学 短期大学部・歯科衛生学科・助教  
研究者番号：10465833

飯田 貴俊 (Iida Takatoshi)  
神奈川歯科大学・大学院歯学研究科・講師  
研究者番号：20747787

石渡 弥久 (Ishiwata Miku)  
神奈川歯科大学 短期大学部・歯科衛生学科・助教  
研究者番号：90465831

### (2)研究協力者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。